

平成28年度

自己点検・評価書  
(学校評価報告書)

附属幼稚園

## 1 附属幼稚園の現況

### (1) 学校名

大阪教育大学附属幼稚園

### (2) 所在地

大阪府大阪市平野区流町2-1-79

### (3) 学級数・収容定員

6級(1学年2級) 収容定員150人 (1学級30人 ただし3歳児は16人と14人)

### (4) 幼児・児童・生徒数

149人 (男児74人 女児75人)

### (5) 教職員数

園長(併任) 1人, 副園長 1人, 主幹教諭 1人, 教諭 6人, 養護教諭 1人, 非常勤講師 2人  
事務職員 1人, 臨時用務員 1人, スクールカウンセラー 1人  
栄養士 1人, 調理師 1人

## 2 附属幼稚園の特徴

本園は、都会の中にありながら、豊かな自然環境の中で身近な人々とのあたたかい触れ合いや、生き物たちとの日々のかかわりを通して、やさしく、あたたかく、思いやる心が育つことを願っている。

幼稚園生活の主人公は幼児であり、幼児の思いや願いを大切に生活をはかっている。幼児は遊びを通して様々なことを学んでいる。遊びこそが幼児の生活そのものであり、今日の幼児の姿から明日の生活がつくり出されていく。常に幼児の今の姿を出発点として、個々の育ちや発達の状態、その時期にふさわしい遊び(生活)が展開されていくよう、努めている。

また、昭和23年より保護者手作り給食を実施しており、60年間にわたって受け継がれている。子どもたちに手作りの温かいものを食べさせてあげたいという願いと共に、食の安全や衛生、アレルギー対応など、時代の変化に応じた給食作りを目指している。

## 3 附属幼稚園の役割

- (1) 学校教育法に基づく幼稚園教育を行う。
- (2) 幼稚園教育の理論と実践に関する研究を行う。
- (3) 本学学生の教育実習を行い、その指導を行う。
- (4) 地域社会における幼児教育の振興に寄与する。

#### 4 附属幼稚園の学校教育目標

「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」

○ 3歳児・・・喜んで幼稚園へ来る子ども

生後わずか3年しかたっていない子どもであるが、一人の人間としてすばらしい力を持ち、一人一人がその子らしさを秘めている時期である。この1年をゆったりと大好きな先生に寄り添い、自分の好きな遊びに没頭し、明日も大好きな幼稚園に行こうと思うことが、これからの保育年限における健やかな育ちを期待する上で何よりも大切なことであると考えている。

○ 4歳児・・・友達を見つけて、幼稚園の生活を楽しむ子ども

友達の存在に心を揺り動かし、幼稚園では「いろいろな友達がいる」「一人より友達と一緒に生活が楽しい」「友達とかかわり合って育つ」等の体験をしながら、幼稚園生活の楽しさを味わい、思う存分遊ぶ子どもに育つことを願っている。

○ 5歳児・・・友達と心を通わせ、様々な生活に熱中する子ども

心身ともにたくましく、知的好奇心もぐんと増す時期である。試行錯誤を繰り返しながら全力で幼稚園の様々な生活に熱中し、一人でも、みんななどでも「やったね」という成就感を味わい、友達と力を合わせて楽しい園生活をつくり出す子どもに育つことを願っている。

#### 5 附属幼稚園の学校教育計画

1 人間尊重の教育

幼児一人一人の人権を守り、将来豊かな心で、生きる喜びを感じ、差別を克服し、困難に立ち向かう、しなやかな心と体をもった人間の育成に努める。

2 基本的な生活習慣の形成

幼児の行動を見守りながら、必要な時期に教師自身がモデルとなって援助したり励ましたりしながら、幼児が園生活にとって必要な行動であることを自覚し、自ら身に付けていくことを願っている。

3 道徳性の芽生え

園生活の中で、自分以外の友達や身近な人とかかわりを通して他人の存在に気付き相手を尊重する気持ちを育てることから始まると考える。また、園内の豊かな自然環境や飼育動物との共生の中で、思いやりや責任感など人間性の根幹にふれる体験を大切にしよう努めている。

4 身近な物の扱いと基礎的な技術や技能の習得

幼児の生活が、より楽しく、より心地良く、より便利に、より目的に向かって充実するために必要な遊具や用具がある。これらの扱いを幼児自身が必要と感じた時に逃さず身に付けていくことと、3年ないし2年間の園生活の中で出合うことができるよう、指導計画の中に位置づけることとしている。

6 附属幼稚園の平成28年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

| 自己評価 |              | 学校関係者評価 |           |
|------|--------------|---------|-----------|
| A    | 高いレベルで達成できた  | A       | とても適切である  |
| B    | 達成できた        | B       | おおむね適切である |
| C    | 一部達成できなかった   | C       | あまり適切でない  |
| D    | ほとんど達成できなかった | D       | 適切でない     |
|      |              | E       | 判定できない    |

|        |                        |
|--------|------------------------|
| 学校教育目標 | 「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」 |
| 学校教育計画 | 1 人間尊重の教育              |

| 本年度の重点目標<br>(評価項目)                     | 具体的な取組内容<br>(評価指標)  | 自己点検評価  |   |    | 学校関係者評価  |    | 学校関係者評価を<br>踏まえた改善策  |
|--|---|---|---|----|--|----|--|
|  |   | 達成状況  | 改善点   | 評価 | 意見・理由  | 評価 |  |
| (1) 一人一人の幼児が自分らしさを発揮し、友達とかかわる楽しさを味わう。  | 一人一人の幼児の気持ちに寄り添ったかかわりを教師が心がける。また、一人一人の遊びの充実と共に、友達と互いの良さに気付けるような仲間づくりに努める。 | 幼児の行動を肯定的に捉えることで、幼児が安心感をもって園生活を送るようになった。また、その教師のかかわり方により、幼児が友達の姿を認める姿につながった。友達同士いろいろなことを教え合ったり、困ったときには助け合ったりする姿が多く見られるようになった。 | 幼児が安心して園生活を過ごすためには、保護者との連携は欠かせないものである。幼児が自分らしさを発揮するためにも、さらに保護者との連携を密にしていきたい。また、友達とかかわりについては個々の発達に応じて援助していく必要を感じている。 | A  | 教師は幼児への願いをもつことから否定的に見てしまうこともある。幼児のありのままの姿を受け入れ、なぜそのような行動をしたのか理由を考えることが大切ではないか。<br>職員同士も互いを肯定的に捉えるように心がける必要がある。<br>保護者が気軽に幼稚園に相談できるような工夫が必要ではないか。<br>教職員同士の情報交換が大切である。全教職員で全幼児を育てようとしていることは大切である。 | A  | 次年度も幼児を肯定的に捉えようとする姿勢は継続していきたい。教職員同士が保育の内容や一人一人の幼児の内面の育ちについて、情報交換できるように、来年度は毎日時間を設けていきたい。<br>保護者との連携については、教師から保護者に声をかけていくことを心がけながら、保護者も幼児を肯定的に捉えられるように啓発していきたい。 |
| (2) 教職員間の情報交換を密に行い、幼児の内面の育ちについて共通理解する。 | 日常的に幼児の姿の情報交換を行う。また、幼児の姿で気付いたことを全教職員でメモを取り、様々な方向から幼児の育ちを捉えるようにする。         | 担任の幼児の捉え方だけでなく、全教職員で情報交換することにより、幼児の成長を多面的に捉えられるようになった。また、よく話題にあがる幼児だけでなく、全ての幼児に対して全教職員が心配りするようになった。                           | メモの数は幼児によって偏りがあったり、それを今後の保育にどう生かすかという課題があたりするので、次年度はそれについて教職員間で意見を出し合いたい。   |    |  |    |  |

|        |                        |
|--------|------------------------|
| 学校教育目標 | 「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」 |
| 学校教育計画 | 2 基本的な生活習慣の形成          |

| 本年度の重点目標<br>(評価項目)                         | 具体的な取組内容<br>(評価指標)                              | 自己点検評価  |   |    | 学校関係者評価  |    | 学校関係者評価を<br>踏まえた改善策  |
|--|---|---|---|----|--|----|--|
|  |   | 達成状況  | 改善点   | 評価 | 意見・理由  | 評価 |  |
| (1) 危険な場所、危険な遊び方などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。 | 日々の遊びの様子から実態を捉え、幼児が自分で安全を意識しながら生活できるようにする。      | 安全に生活するには幼児の情緒が安定することが大切である。一人一人の幼児に丁寧にかかわることで、危険な行動をすることは少なくなっていった。また、危険な場面があった時には全体への喚起を行い、幼児同士で伝え合う姿も見られた。 | 教師自身が、危険を予測できる目を養う必要があると思われる。また、危険な行動があった時には、なぜ危ないかを考える機会を設けていくようにしていきたい。     | A  | 園庭開放を行っている幼稚園では幼稚園の中では幼児は約束を守って遊んでいるが、園庭開放の時間になると危険なことをして遊ぶ様子も見られる。安全に関しては保護者にも意識してもらう必要がある。 | A  | 安全教育については保護者も含め、園全体でさらに意識向上を目指していきたい。また、危険を知らせる時はなぜ危険なのかを具体的に分かりやすく、伝えていきたい。     |
| (2) 災害時にも教師の話をよく聞いて、落ち着いて行動する。             | 避難訓練を積極的に行い、緊急時どのように行動すればよいのかを、幼児自身が考えられるようにする。 | 避難訓練を定期的に行うことにより、大半の幼児が緊急時にも落ち着いて行動できるようになった。しかし、非常ベルや緊急時の放送により不安になり、適切に行動できない幼児もいた。                          | 緊急時の教職員の役割を見直し、不安になりやすい幼児を全体で支えられるようにしていく。また、避難訓練を重ねることにより、落ち着いて行動できるようにしていく。 |    | 避難訓練は教職員の意識の訓練だと思う。いろいろな想定で訓練を行うことが大切である。  |    | いろいろな想定での避難訓練を繰り返していきたい。その中で、特に配慮が必要な幼児については、教職員皆がかかわり方を理解しながら、役割分担できるようにしていきたい。 |

|        |                        |
|--------|------------------------|
| 学校教育目標 | 「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」 |
| 学校教育計画 | 3 道徳性の芽生え              |

| 本年度の重点目標<br>(評価項目)   | 具体的な取組内容<br>(評価指標)   | 自己点検評価  |   |    | 学校関係者評価   |    | 学校関係者評価を<br>踏まえた改善策  |
|--|--|---|---|----|---|----|--|
|  |  | 達成状況  | 改善点   | 評価 | 意見・理由   | 評価 |  |
| (1) 友達とかかわる<br>中で葛藤やつまづ<br>きを体験し、自分<br>の思いを出した<br>り、相手の思いに<br>気づいたりする。 | 友達とのかかわり<br>の中でいざこざが起<br>きた時に、自分の思い<br>を言葉で話したり相<br>手の思いを聞いたり<br>する機会を大切にす<br>る。 | 自己主張が強い幼児には、相<br>手の気持ちを落ち着いて聞く機<br>会を多くもてるよう心掛けた。<br>また、逆にいざこざを避けよう<br>とする幼児には、まずは自分の<br>思いを相手にしっかり出せるよ<br>うに、日々の保育で励ましてい<br>った。第3者である幼児が、客<br>観的に状況を捉えて話す場面も<br>見られ、相手の思いに気付いた<br>り自分の考えたことや気持ちを<br>言葉で話せたりするようになって<br>きた。 | 今年度の取り組みから自分<br>の思いを出し過ぎる幼児、自<br>分の思いを出しにくい幼児を<br>育てるだけでなく、友達の様<br>子を客観的に捉え、かかわる<br>幼児の存在が必要なことがよ<br>く分かった。一人一人の幼児<br>を支えるだけでなく、クラス<br>全体として育っていけるよう<br>支えていくことが必要であ<br>る。今後も個と集団の両面か<br>ら育ちを支えていきたい。 | B  | 個と集団を意識するこ<br>とが大切だと感じた。両<br>面からの育ちを支えるこ<br>とで、幼児同士育ってい<br>くのだと感じた。<br>高校生とのかかわりの<br>話を聞いてとても大切だ<br>と思った。もっと、中高<br>生の職場体験など交流が<br>行えればよいと思う。<br>地域との交流について<br>は、地域でも附中生と交<br>流したことがある。何か<br>あった時のために大切だ<br>と感じるが、中学生が具<br>体的な手段が分かってい<br>ないことがある。いろい<br>ろな面から、連携が大切<br>である。 | B  | 個と集団の両面から育っ<br>ていけるように、日々の保<br>育に取り組みたい。<br>いろいろな人とかかわ<br>りについては、高校のSG<br>Hの取り組みなども視野に<br>いれながら、平野五校園で<br>つながっていきたい。<br>道徳性の芽生えというこ<br>とで、命についても幼稚園<br>なりに考えていきたい。こ<br>れからは他者との関係性の<br>中で、つながりながら育つ<br>ものであると思う。 |
| (2) いろいろな人<br>とかかわり、人と<br>かかわる楽しさを<br>味わう。                             | 異年齢の友達や他<br>校種の人とかかわる<br>機会を設け、自分の周<br>りにはいろいろな人<br>がいることに気付く。                   | 日々の生活ではクラスや学年<br>を超えて、いろいろな友達と自<br>然に遊ぶ姿が見られた。しか<br>し、異年齢交流の日の回数が少<br>なくなったり、他校種の人との<br>かかわりも単発したものだけにな<br>ったりしてしまった。   | 教師が意識しているいろい<br>ろな人とかかわる機会を設けてい<br>くことが必須である。交流は<br>相手とのやりとりに時間が必要<br>となるが、工夫しながら今<br>後さらに広げていきたい。  |    |   |    |  |

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| 学校教育目標 | 「すこやかに あたたかく 遊びに生きる子ども」 |
| 学校教育計画 | 4 身近な物の扱いと基礎的な技術や技能の習得  |

| 本年度の重点目標<br>(評価項目)  | 具体的な取組内容<br>(評価指標)  | 自己点検評価  |  |    | 学校関係者評価  |    | 学校関係者評価を<br>踏まえた改善策  |
|---|---|---|--|----|--|----|--|
|   |   | 達成状況  | 改善点  | 評価 | 意見・理由  | 評価 |  |
| <p>(1)遊びがより楽しく、充実していくよう、幼児の必要感に合わせて遊具や道具を提示し、経験を広げていく。</p> <p>(2)遊具や道具の安全で正しい扱い方や大切に扱うことなどを知り、その態度を身に付けていく。</p> | <p>幼児の発達にあつた、遊具や道具についての教材研究を深め、準備を進めながら、タイミングを逃さず投げかけるよう配慮する。また、その扱いは教師がモデルとなるよう心掛けていく。</p> | <p>教育課程・指導計画の改訂に向けて幼児の発達に合わせた経験について考え合ったり、教師自身が学ぼうとする機会が増えたりした。それにより、タイミングよく遊具や道具を提示したり、教師が手作りで遊具を用意したりできた。</p> <p>教師自身の遊具や教具に対する教材研究は、十分とは言えなかった。時期を逃さず、幼児に経験できるようにするために、不十分な準備のまま環境を構成してしまっていることもあった。</p> | <p>遊具・道具の精選と、幼児にわかりやすい管理の方法など、発達に合った環境構成を工夫していく。引き続き幼児が生活を豊かにし、新たな気付きや、経験の広がりにつながる遊具、用具の開発に努める。</p> <p>一つ一つの遊具・道具に関して、その特徴は何か、どのような使い方ができるか、どのように幼児に指導したらよいかなど、教師自身が教材研究をさらに進めていきたい。</p> | B  | <p>教材研究は大切である。実技研修だけを行うとは研究とはならないが、基礎基本を学ぶ機会が必要であると感じる。</p> <p>一つ一つの教材教具について、教師自身が学ぶ機会をもつことが必要ではないか。</p> | B  | <p>教育課程の資料編の作成に合わせて、皆で教材について研修し合う機会を設けていく。</p> <p>以前からある教材のよさ、新しいもののよさについて考え合っていきたい。</p> <p>ものを大切に扱うという視点でも遊具や道具について、保育でどのように環境構成していくかを見直していきたい。</p> |

